

水俣市立蘇峰記念館蔵「徳富蘇峰書翰」目録および解説

蘇峰書翰研究会

以下に掲げる目録は、水俣市立蘇峰記念館蔵の徳富蘇峰書翰について、基本的な書誌データをまとめたものである。目録のための調査にあたっては、「徳富蘇峰の書簡調査及び目録の作成」という事業名で、平成二十二年、平成二十三年年度の熊本県立大学後援会の補助を受けた。

平成二十二年九月十五、十六日、平成二十三年九月十三日、十四日の計四日間、「水俣市立蘇峰記念館」に収められた蘇峰筆の書翰資料をお借りして、調査を行った。調査を進める中で、記念館蔵の書翰の内、徳富蘇峰の秘書を務めていた八重樫祈美子へ宛てたものは、既に一九四九年に志村文蔵編『徳富蘇峰翁と病床の婦人秘書』（野ばら社）として出版されていることが判明したが、実際の書翰と照らし合わせた所、幾つか相違のあることが明らかとなった。例えば、書翰では「園」とあるものが活字本では「庭」となっ

ていたり（書翰8）、「月出タリ」とあったのが「月出デタリ」となっていたりする（書翰69）。これについては活字本の前書きに、「書中の誤字誤脱等を訂正したる」「其他は一切原文通り」とある。他にも、書翰に登場するいくつかの固有名詞（出版社名、人名）を伏字にしたり、書き換えたりとの処理が施されていた。こうした活字本と書翰との相違については、目録の内容要約の後に【備考】として挙げた。また、書翰中の解説不能であった箇所は■としてある。

記念館蔵の書翰は、この八重樫氏宛のものが大半を占めるが、この他、芦北郡青少年団処女会での演説草稿と水俣婦人会へ宛てた文書の二点が含まれている。この二点については、当然ながら単行本に収録されていないため、翻刻を行い、併せて掲載することとした。最後に「徳富蘇峰の書簡調査及び目録の作成」事業への参加者は以下の通りである。

(平成二十二年度)

金森梓・草野優子・久保田真美・谷口友美・奈須美晴・平井健吾・横峯由佳・吉谷光平・東隆志・荒毛みずき・本多美咲

(平成二十三年度)

古上恵美里・成富なつみ・東隆志・吉岡はるか・荒毛みずき・本多美咲・横田悠紀・泉葵・鷲崎有紀
なお、鈴木元・五島慶一・大島明秀・木村洋の教員四名が随行了た。

資料番号	種類	数量	法量(縦×横cm)	年代(根拠)	宛所
1	封書(封筒有)	3	28・1×78・8	昭和十八年七月六日 〔本文より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院患者 八重樫祈美子様
				康楽病院への入院、医師への手配。昨年の自身の病苦と今回の女史の病苦、そして自身が命名した病院など二人にまつわる縁について。双宜荘前の見舞いの旨。 【備考】軸装。活字本に康楽病院の命名について記載があるが、書簡には見られず。	昭和十八年七月十日 〔本文より〕
2	封書(封筒有)	1	18・4×175・6	昭和十八年七月十二日 (消印より)	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院内科患者 八重樫祈美子様
				女史との面会、その後民友社に赴き回想に浸ったこと。女史への見舞いの言葉。 【備考】軸装。写真二枚と田崎先生宛ての手紙が同封されていたようだが、現存せず。	
3	封書(封筒有)	1	18・4×188・8	昭和十八年七月十二日 (消印より)	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院内科患者 八重樫祈美子様
				友人の紫山翁が女史から弔詞を送られたこと。登山の計画について。自分は健康に過ごしているからと、女史への激励を綴る。 【備考】軸装。	

7	6-②	6-①	5	4
<p>大森から山王草堂老松の板を取り寄せ、自分と女史用の机二脚を新しく造ったこと。東大に入院していた際、異なる二人から同一番号の浅草観音御籤を二つ貰い、一つ女史にあげる。</p> <p>【備考】軸装。活字本脚注に「浅草観音籤封入」とあるが現存せず。</p>	<p>昨晩明月を眺めて松間の月の句を想起。熱が出た自分への女中の手厚い看護。暑さのため十七日の朝から山へ向かう旨。引出しの写真、六月以来撮影をしていない。今度は愚簡を送る等の近況報告。【備考】軸装。</p>	<p>芦北郡青少年団処女会での演説草稿。【備考】軸装。</p>	<p>庭前に初の白百合が咲いたこと。白楽天、白居易が感心する程の名詩を書き上げたこと。</p> <p>【備考】軸装。又、漢詩有り。</p>	<p>女史の植えた野菊の成長、晚晴草堂の水辺に一輪だけ咲いていた撫子の花について。</p> <p>【備考】軸装。活字本脚注「撫子押花封入」とあるが現存せず。</p>
封書（封筒有）	封書（封筒有）	演説草稿	封書（封筒有）	封書（封筒有）
1	1	1	1	2
18・5×229・0	18・5×275・1	21・1×173・0	18・3×197・5	18・1×57・8
昭和十八年七月十六日 〔消印より〕	昭和十八年七月十五日 〔消印より〕	昭和五年三月三十日 〔本文より〕	昭和十八年七月十四日 〔消印より〕	昭和十八年七月十三日 〔消印より〕
東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院内科室 八重樫祈美子様	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院内科患者 八重樫祈美子様	演説草稿のため無し。	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院内科患者 八重樫祈美子様	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院内科患者 八重樫祈美子様

8	封書 (封筒有)	3	28・2×76・6	昭和十八年七月十七日 〔消印より〕	東京都豊嶋区巢鴨西二丁目 康楽病院内科室 八重樫祈美子様
9	封書 (封筒有)	1	18・3×176・0	昭和十八年七月十八日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院内科室 八重樫祈美子様
10	封筒 (封筒有)	4	28・3×96・5	昭和十八年七月十九日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院内科室 八重樫祈美子様
11	封書 (封筒有)	4	28・1×97・3	昭和十八年七月二十日 〔本文より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様

双宜荘に入つて第一番の書。女史撮影の写真、岳麓詩抄の小冊子について。
 【備考】軸装。速達に「18・7・17」とあり。消印薄。活字本「時節柄く病床下」の部分、書簡三枚目裏に記載あり。

双宜園の様子。見舞いの言葉。【備考】軸装。活字本「菖蒲押花封入、其ノ包紙に「双宜荘の花」と記さる。」とある。現存せず。

斎藤用花氏が来訪し、藤の絵を見に山元画伯の新邸へ行った。
 【備考】軸装。活字本脚注「本文日付無し、局印ハ18・7・19とあり。」

過去の回想と、見舞いの言葉。英人ヒンドハム夫人の逸話。
 【備考】軸装。消印「87.10」とあり。活字本「頓首」の脱語。活字本「ヒンドハム夫人」とあったが、英人ということから考えて、ヒンド公夫人の可能性が考えられる。(ヒンドラインドの可能性も。ここで指されている人物は不明だが、音を考えて Windham (ウィンダム) 夫人である可能性も考えられる)

12	封書 (封筒有)	5	28・4×114・7	昭和十八年七月二十一日 〔本文より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院内科室 八重樫析美子様
13	封書 (封筒有)	1	18・4×151・9	昭和十八年七月二十二日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院内科 八重樫析美子様
14	封書 (封筒有)	2	20・7×28・0	昭和十八年七月二十三日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院内科室 八重樫析美子様
15	封書 (封筒有)	6	28・4×133・5	昭和十八年七月二十四日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院内科室 八重樫析美子様
16	封書 (封筒有)	3	28・4×75・4	昭和十八年七月二十六日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院内科室 八重樫析美子様
<p>南先生の来訪、田崎先生の書簡、山ぼうしについて。【備考】軸装。活字本脚注「パラフィン紙包押花同封、包紙二」双宜園ノ花山帽子」と記さる」とあるが、ともに現存せず。</p>					
<p>天気のこと、民友社とのこと、女史との思い出、見舞いの言葉。【備考】軸装。</p>					
<p>女史への見舞いの言葉と前日に送った句「積翠壓家天地青」について。</p>					
<p>依頼された書(王陽明の詩に次韻したもの)を録呈したことなどの近況報告と、女史への愛情のこもった励ましが書かれている見舞い状。【備考】軸装。</p>					
<p>国民史が順調に進む、高橋氏が来訪したなどの近況報告と、女史に対する励まし。【備考】軸装。活字本「□□□□」↓書簡「明治書院」。活字本脚注「パラフィン紙に包みて薊の押花封入」とあるが、ともに現存せず。</p>					

20		19-②	19-①	18	17
<p>天候について。宮様がニューグランドホテルに御出でになった旨。自分の近況、小澤博士のこと、見舞いの言葉。小花を同封。</p> <p>【備考】軸装。活字本「宮様が新グランドホテル」は書簡「賀陽宮様が新グランドホテル」か。活字本脚注に「一片の小花を封入す、その包紙に「双宜荘の花 七月念八」と記さる」とあるが、ともに現存せず。</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>5</p> <p>28・4×1113・9</p> <p>昭和十八年七月二十九日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様</p>	<p>別紙、二百グラムの輸血をした賢弟について。【備考】軸装。本文中「別紙」とは、19-①の書簡を指すと思われる。速達「18・7・29」とあり。</p> <p>封書（封筒有）</p> <p>3</p> <p>27・4×76・7</p> <p>昭和十八年七月二十八日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院内科室 八重樫東香女士</p>	<p>細香女史作の絵について。【備考】軸装。速達「18・7・27」とあり。活字本「托 佐藤君 老蘇 頓首」封筒裏に記載か。</p> <p>封書（封筒有）</p> <p>4</p> <p>28・6×94・9</p> <p>昭和十八年七月二十七日 〔本文より〕</p> <p>康楽病院 八重樫東香女士</p>	<p>今後の予定、イタリア首相の辞職について。【備考】軸装。</p> <p>封書（封筒有）</p> <p>4</p> <p>28・4×94・8</p> <p>昭和十八年七月二十七日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子さま</p>	<p>山の天気、双宜園の様子について。【備考】軸装。活字本「大金——コレハ老生ニ取りてのこと——」とあり、一つ目の「——」は書簡「」。】。</p> <p>封書（封筒有）</p> <p>5</p> <p>28・5×114・1</p> <p>昭和十八年七月二十六日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院内科室 八重樫祈美子様</p>

25	24	23	22	21
<p>南先生との面会の話と、別紙の作品への感想を求める。十月に上京して見舞いに行く報告。</p> <p>【備考】別紙詩箋(54, 5×9, 2)一枚あり。</p>	<p>封書(封筒有)</p> <p>4</p> <p>28・3×20・0</p> <p>昭和十八年八月三日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊島区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美子さま</p>	<p>封書(封筒有)</p> <p>5</p> <p>28・3×20・0</p> <p>昭和十八年八月二日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊島区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様</p>	<p>封書(封筒有)</p> <p>1</p> <p>8・0×152・0</p> <p>昭和十八年八月一日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊島区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美子さま</p>	<p>封書(封筒有)</p> <p>3</p> <p>28・2×76・4</p> <p>昭和十八年七月三十日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊島区西巢鴨二丁目 康楽病院内科室 八重樫祈美子様</p>
<p>【備考】軸装。</p>				
<p>東香女史の小康の知らせ。【国民史】九十冊完結、九十一冊書き始めること。</p>				
<p>新聞連載中の『近世日本国民史』九十冊脱稿や某雑誌社への寄稿についてなどの近況報告と、祈美子女史への愛情のこもった励まし。</p>				
<p>【備考】活字本脚注「新宜園ノ野花」と記し一茎の小花を封入す」とあるが現存せず。</p>				
<p>国民史の第九十一冊を書き始めたという近況報告。新宜園での過去の回想。</p>				
<p>【備考】15行目に赤書きの訂正あり。</p>				
<p>冥土の土産として石屋に文字を彫らせた等、近況報告と女史への見舞いの言葉。</p>				
<p>【備考】一箋目最終行の秋トト万歳のトが活字本では欠。活字本67頁最終行「冥土」とあるが書簡「冥途」。</p>				

31	30	29	28	27	26
<p>雷が鳴っていること、勉強が捗らない等が書かれた見舞状。 【備考】 活字本脚注に「水キボーション及日扇の花封入」とあるが、現存せず。</p>	<p>封書（封筒有） 2 29.0×21.0 昭和十八年八月九日 （消印より） 東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美子さま</p>	<p>封書（封筒有） 4 28.4×20.1 昭和十八年八月九日 （消印より） 東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様</p>	<p>封書（封筒有） 5 28.3×20.0 昭和十八年八月六日 （消印より） 東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美子さま</p>	<p>封書（封筒有） 4 28.4×20.1 昭和十八年八月五日 （消印より） 東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院内科室 八重樫祈美子様</p>	<p>封書（封筒有） 4 28.5×20.0 昭和十八年八月四日 （消印より） 東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院内科室 八重樫祈美子さま</p>
<p>昨日添えた詩についてと、女史への見舞いの言葉、近況報告。 【備考】 活字本脚注に「山人参ノ花」同封」とあるが、現存せず。</p>					
<p>相澤君に素麵を託す。身辺では不快なことばかりだという近況報告。女史への見舞いの言葉とこの先の希望。 孫が訪ねてきた件についてと相澤氏の見舞い予定。女史の短歌への感想。</p>					
<p>山に赴き少年団のもとで演説を強要されたこと、西村植木屋の佐藤氏と処女林探検をしたことについて。女史への見舞いの言葉。沼津より届いた絵葉書を看護婦の西野さんに託す。</p>					

37	封書 (封筒有)	4	27・0×20・0	昭和十八年八月十五日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様
	<p>【備考】 別紙にて漢文添え付け。活字本脚注に「す、きの穂一茎封入」とあるが、現存せず。</p> <p>来客のあったこと、雷雨激しいこと。見舞いの言葉。</p>				
36	封書 (封筒有)	3	26・2×7・2	昭和十八年八月十四日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美コさま
	<p>昭和十六年ごろ女史から貰った書簡を片手に、昔を偲ぶ。女史への告白。</p>				
35	封書 (封筒有)	2	27・9×20・3	昭和十八年八月十三日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様
	<p>【備考】 活字本脚注に、「双宜荘ノ初花桔梗」と記し一花を封入 文中の詠艸無し」とあり。</p> <p>天気のこと、山のこと。別紙に、富士を題にとった詩を書き記してあること。</p>				
34	封書 (封筒有)	1	20・9×150・2	昭和十八年八月十二日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様
	<p>【備考】 軸装。活字本脚注「文中の二花封入」とあるが、現存せず。</p> <p>悪天候のこと。女史への切実な言葉。花を同封。</p>				
33	封書 (封筒有)	4	27・2×19・7	昭和十八年八月十二日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様
	<p>女史の容体について、見舞いの言葉。陶淵明の詩の一句について。</p>				
32	封書 (封筒有)	1	18・4×159・5	昭和十八年八月十日 〔本文より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美子さま
	<p>【備考】 速達の日付に「18. 8. 10」とある。消印は「18. 8. 1」</p> <p>南先生が康楽病院を訪れていると推測。長孫について。</p>				

42	41	40	39	38	
<p>終日來客の絶えなかつたこと、仕事の進み具合の報告、見舞いの言葉。 【備考】 活字本脚注「山葡萄の一葉封入、その包紙に「蘇翁窓外ノモノナリ」と記す」とあるが現存せず。</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>4</p> <p>27・8×19・8</p> <p>昭和十八年八月二十日 <small>〔消印より〕</small></p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫折美子さま</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>5</p> <p>27・7×19・6</p> <p>昭和十八年八月二十日 <small>〔消印より〕</small></p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫折美子さま</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>4</p> <p>27・6×19・6</p> <p>昭和十八年八月十九日 <small>〔消印より〕</small></p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫折美子さま</p>	<p>天候のこと、來客の知らせ、見舞いの言葉。 【備考】 活字本脚注に「別紙の歌、紅葉二片封入」とあるが、紅葉現存せず。</p> <p>封書（封筒有）</p> <p>3</p> <p>27・6×19・8</p> <p>昭和十八年八月十八日 <small>〔消印より〕</small></p> <p>東京都西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫折美子様</p>	<p>天候のこと、昨日訪ねた神宮のお札をおくること、見舞いの言葉。蘇香という改名について。 【備考】 活字本に「野花一片封入」とあるが、現存せず。</p> <p>封書（封筒有）</p> <p>3</p> <p>27・7×19・6</p> <p>昭和十八年八月十六日 <small>〔消印より〕</small></p> <p>東京都西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫折美子様</p>

47	46	45	44	43
<p>封書（封筒有）</p> <p>4</p> <p>27・7×9・7</p> <p>昭和十八年八月二十五日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様</p> <p>【備考】活字本89頁1行目「匆々」とあるが、書簡「草々」。</p> <p>今日は来客が雲のようであったということ、憂い・憤りが迸出した詩が出来たということ。</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>3</p> <p>27・7×19・6</p> <p>昭和十八年八月二十四日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫さみ子様</p> <p>祈美子女史弟八重樫三四次氏の結婚について、「本年は詩も歌も出来ず」といった近況報告。</p> <p>【備考】活字本脚注に「男郎花伴女郎花」と記し両花各一片封入」とあるが、ともに現存せず。活字本88頁4行目に一字増文あり。書き損じか。</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>2</p> <p>28・7×19・7</p> <p>昭和十八年八月二十三日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美子さま</p> <p>日一日と秋の深まる山のこと。見舞いの言葉。</p> <p>【備考】活字本脚注「この書簡以下数枚ある筈なれど逸失す。八月二十三日のもの」とある。書簡二枚目末「以下欠ク不解何故」という朱書きがあり、三枚目以降は現存せず。また同じく活字本脚注「楓葉を封入しその包紙に「君二見セタイバカリニ楓葉ガ蚤ク赤クナリマシタ」と記さる」とあるが、こちらも現存せず。</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>3</p> <p>手紙27・3×19・6 漢詩27・5×19・6</p> <p>昭和十八年八月二十一日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美子さま</p> <p>天候のこと。三部経の句を慰みに書き送る。</p> <p>【備考】活字本脚注「封入押花一茎、「君か悩みを刈萱の穂」と書す」とあるが、現存せず。</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>3</p> <p>27・7×9・7</p> <p>昭和十八年八月二十二日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美子さま</p> <p>天気のこと、健康のこと、見舞いの言葉。草木の変化にて季節の移り変わりを知らぬこと。</p> <p>【備考】活字本脚注「楓葉数片封入」とあるが、現存せず。</p>

52	51	50	49	48
<p>奥山を友人と散策、鳥の羽や楓を取る、女史の手紙の保管へ感謝。 【備考】活字本脚注「野花ト羽毛封入」とあるが、現存せず。また書簡なし。</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>4</p> <p>27・7×19・6</p> <p>昭和十八年八月三十一日 <small>〔消印より〕</small></p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>5</p> <p>28・0×112・7</p> <p>昭和十八年八月三十日 <small>〔消印より〕</small></p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫きみ子さま</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>2</p> <p>18・2×73・1</p> <p>昭和十八年八月二十八日 <small>〔消印より〕</small></p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>1</p> <p>18・3×133・2</p> <p>昭和十八年八月二十七日 <small>〔消印より〕</small></p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美子さま</p>
<p>政客との政論の応酬などの近況報告、新聞の拙文を添削するよう依頼。 【備考】書簡一枚目の法量は27, 7×20, 3。</p>				
<p>悪天候の上、東京から来客に疲労したこと、佐藤さんが女史のために摘んだ花のこと、近頃女史の方から良 い便りだけしか来ないことについて。 【備考】活字本脚注「桜の霜葉一片封入、その包紙に「コレハナンノハ（葉）カ当てテゴランナサイ」と記さる。」 とあるが、ともに現存せず。</p>				
<p>本社から井上女史が来たこと、双宜荘入口の石垣を溶岩で積み重ねたこと、手紙と共に、数日前書齋前で読 売記者が撮った写真を送ったということ。【備考】本文記述の写真なし。</p>				

57	封書（封筒無）	4	27・7×19・6	昭和十八年九月四日 〔本文より〕	封筒が無いため不明
	最近の写真を送る旨、大隈と演説する夢を見たこと、絶えず訪れる字を乞う来客について。 【備考】書簡三枚目の一部が欠損により欠如。写真一枚封入。活字本「霜葉二片在中、封紙二「秋葉優春花」と記さる。」とあるが、ともに現存せず。				
56	封書（封筒有）	4	28・0×19・8	昭和十八年九月三日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様
	女史の良好な体調、自身も瀬戸際を乗り切る。書物のことで東条さんを招き寄せたこと。 【備考】書簡二枚目「早川君」から、三枚目「由」まで活字本において脱文。				
55	封書（封筒有）	4	27・6×19・5	昭和十八年九月二日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫キミ子様
	来客のため山行中止、伊太利論文の好評、一誠堂の若主人が持参した珍しい本への購買意欲。 【備考】活字本脚注「松虫草一茎封入」とあるが、現存せず。				
54	封書（封筒有）	3	27・7×19・6	昭和十八年九月一日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様
	女史と知り合った記念日九月一日のこと。友人とで奥山へ散策、楓を持ち帰ったことを記す。 【備考】活字本脚注「例二ヨリテ紅葉差出候」ト追書サレ楓葉数片在中、「双宜荘ノ可憐生」ト包紙ニ記ス。」とあるが、ともに現存せず。				
53	封書（封筒有）	4	28・0×19・8	昭和十八年九月一日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈み子様
	奥山に散策、西野さんが楓を双宜園に持参、十一月康楽病院へ見舞いの旨並び女史への激励。 【備考】活字本脚注「奥山ノ楓」一葉在中」とあるが、現存せず。				

58	封書 (封筒有)	5	27・7×19・6	昭和十八年九月五日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美子さま
59	封書 (封筒有)	4	27・3×19・6	昭和十八年九月六日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美子さま
60	封書 (封筒有)	3	27・7×19・7	昭和十八年九月七日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美子さま
	双宜園の様子。眼病で新聞も読まず、瞑想に耽る。				
61	封書 (封筒有)	5	27・6×19・7	昭和十八年九月八日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫さみ子様
	「二事の新聞(ニュース)あり」として、東京からの客人を案内したこと、双宜荘に万歳の石碑を建立したことを報告。明日はその姉妹石の千秋(大東亜戦の私設碑)を建立する予定。				
62	封書 (封筒有)	5	27・6×19・7	昭和十八年九月九日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫さみ子さま
	伊の全面降伏、独の前途など世界情勢に触れ、日本の外交を批判。本日は長男の十三回忌。執筆活動について。				
63	封書 (封筒有)	3	27・6×19・6	昭和十八年九月十日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美子さま
枝垂れ桜の移植など双宜荘の様子。眼病、神経痛等自身の体調について。					
【備考】活字本「楓葉一叢同封、包紙二」庭前ノ紅葉御枕元へ蘇より東サマ」と記す。」とあるが、現存せず。					
【蘇峰百絶略解】の完成、同書の岐阜での製本について。揮毫依頼に忙殺させられ、相手方が礼状を寄こさないこと、女史への見舞。					
【備考】書簡三枚目「早川サンノ蘇翁伝も京〓〓〓寓目候全ク吾曹ノ〓〓通りノモノニ有此候」という部分、活字本に無し。					
写真を受け取りの確認。双宜園の手入れ。昨日の焼打記念日について。(明治38年9月5日の日比谷焼打事件を指す) 【備考】活字本「野花一莖封入」とあるが、現存せず。					

64	封書（封筒有）	5	27・7×19・6	昭和十八年九月十一日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様
65	封書（封筒有）	3	27・7×19・7	昭和十八年九月十二日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様
66	封書（封筒有）	4	27・6×19・6	昭和十八年九月十三日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様
67	封書（封筒有）	4	27・7×19・7	昭和十八年九月十四日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様
68	封書（封筒有）	2	27・6×19・7	昭和十八年九月十五日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様
69	封書（封筒有）	1	18・3×177・4	昭和十八年九月十六日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様
<p>双宜荘・双宜園の様子。蘇峰の体調について。徳富家にとって凶月である九月の出来事。</p>					
<p>【備考】活字本「胡枝花一莖封入」とある。現存せず。</p>					
<p>支那、泰山の無字の碑に対して、千秋と万歳の碑があると詠んだ詩について。見舞いの言葉。</p>					
<p>見舞いの言葉。双宜荘について。依頼とは異なる伊太利問題への放送意欲。</p>					
<p>昨日から来客ばかり、本日は言論報告会幹部と時事を討論。双宜園について。</p>					
<p>【備考】書簡二枚目五行目より「却説伊太利モ天罰ニテ□□狎逸ニ占領痛快々々」の一文脱落あり。活字本「18. 9. 12」↓ [■] 9. 12</p>					

75	『百絶略解』の到着。月末までには熱海に帰る。例の新著の音沙汰がない。 【備考】書簡三枚目より「明治書院ノ鈍事振りニハアイソガ尺キ申候」の部分、活字本脱文。	5	27・7×19・7 昭和十八年九月二十二日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美子さま
74	先日大友氏に、双宜園を公共物にすると話したこと。	5	27・6×19・6 昭和十八年九月二十一日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様
73	堀内翁除幕式にて25分間の演説。尚、聴衆は近隣の町村長五、六十名と寿康会の幹部ら。	5	27・5×19・7 昭和十八年九月二十日 〔消印より〕	東京都豊嶋区巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美子さま
72	堀内会の前日であることから、相澤ら数名がやって来たこと。情報局との論争について。 【備考】活字本脚注「紅楓及瓜肌楓ノ葉夫々封入」とあるが、現存せず。	4	27・6×19・8 昭和十八年九月十九日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫きみ子さま
71	大友夫妻、その他数名を伴って嘉木を採拾した。明後日は堀内翁の除幕式。十八日は蘆花の十七回忌であり、蘆花の同人に関する新著を読んだ感想。 【備考】書簡一枚目「ナリ昔シ」という部分、活字本「等にて」と変更。活字本五行目「獅子」と増語、又「頓首」という脱語あり。活字本脚注「野菊二種封入」とあるが、現存せず。	5	27・7×19・7 昭和十八年九月十八日 〔本文より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様
70	投函の遅れ。大友君夫婦と面談。二十日の堀内良平氏の記念顕功碑除幕式で一言述べること。 【備考】書簡三枚目、日付の後に「頓首」の文字あり。活字本「萩花一莖同封」とある。現存せず。	3	27・6×19・7 昭和十八年九月十七日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様

76	封書（封筒有）	2	24・8×35・0	昭和十八年九月二十三日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様
77	封書（封筒有）	3	24・8×35・0	昭和十八年九月二十五日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美子さま
78	封書（封筒有）	3	24・8×34・7	昭和十八年九月二十五日 〔本文より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美子さま
79	封書（封筒有）	3	24・9×34・9	昭和十八年九月二十七日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美子さま
80	封書（封筒有）	3	24・6×120・4	昭和十八年九月二十七日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様
<p>昨晚の悪夢から八重樫氏を心配。大採集を試み、義勇軍も募ったが、昨夜からの降雨で悶々としている。三十日には晚晴草堂に帰る。十月三日には西野さんを差し向けるが、自身も十月末には御目にかかりたいとのこと。【備考】軸装。</p>					
<p>女史への愛の言葉。霧の中を登山。今度堀内氏と相談した上、ホテルのテニスコートを全て借地する。来春に植林してそこに自身の記念館を建てる計画。死後は双宜園、双宜荘共に公共に提出するとのこと。【備考】活字本脚注「柝ノ一葉封入」とあるが、現存せず。</p>					
<p>死後、双宜園と新宜園を修養道場とし、一生を終えること。戦後の日本を心配。道心のある日本人の増加の切望。【備考】消印は「18. 9. 24」。速達の日付は「18. 9. 24」とある。</p>					
<p>昨日の言論報国会の原稿の訂正。八重樫祈美子氏の代わりに入った秘書二名に不満であり、八重樫祈美子氏のありがたみを痛感。現内閣の方向性は私たちの考えから離れている。【備考】封筒の裏「昭和18年9月23日」と記載。本文末「新宜園ノ紅葉ヲ差上マス」とあるが、押し花等は確認されず。活字本「□□」↓書簡「東條」</p>					

81	封書 (封筒有)	2	24・6×34・9 昭和十八年九月二十八日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美子さま
82	封書 (封筒有)	1	18・3×150・3 昭和十八年九月二十九日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫さみ子様
83	封書 (封筒有)	5	27・4×19・7 昭和十八年十月一日 〔本文より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫さみ子さま
84	封書 (封筒有)	3	28・9×18・4 昭和十八年十月一日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西スガモ 二丁目康楽病院 八重樫さみ子様
85	封書 (封筒有)	5	28・0×20・4 昭和十八年十月二日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫さみ子さま
86	封書 (封筒有)	3	29・3×18・9 昭和十八年十月四日 〔本文より〕	八重樫東香女史
<p>女史の略解の書入れへのお礼。二十二日の出京について。 【備考】封筒二つあり。速達の日付「18・10・2」とある。外の封に「八重樫病客様」とあり。活字本「蘇峰百絶略解」についての註釈有。</p>				
<p>熱海での新生活の苦勞について。 【備考】消印「■■■」9・■■■「速達の日付「18・9・29」とある。</p>				
<p>双宜荘からの最後の手紙。女史に退屈な時には妄想にふけるのがよいと助言。妄想は苦しみなどから逃げる最良の方法だと述べる。</p>				
<p>明後日に熱海へ帰る旨。蘇峰記念館を建て為の敷地の準備について。新宜園に咲く野菊を差し上げる。校正の件にて自身へ伝える様に記す。 【備考】活字本脚注「野菊花両三茎封入」とあるが、現存せず。</p>				

92	91	90	89	88	87	
<p>女史と会う日取りを十八日に早める。言論報告会の訂正を持参する。</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>6</p> <p>27・6×19・6</p> <p>昭和十八年十月十四日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫折美子様</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>4</p> <p>27・7×19・6</p> <p>昭和十八年十月十二日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫折美子様</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>5</p> <p>27・7×19・7</p> <p>昭和十八年十月十一日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫折美子様</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>4</p> <p>27・3×19・7</p> <p>昭和十八年十月九日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫きみ子様</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>1</p> <p>18・3×110・0</p> <p>昭和十八年十月六日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫きみ子様</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>6</p> <p>25・2×13・5</p> <p>昭和十八年十月五日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫折美子様</p>
<p>悪作述べる暴風雨の詩。ホテルに宿泊したが、針治療で苦痛。荒尾市に住む余田氏への詩。</p>						
<p>六日から八日まで病床に就いたこと。女史と会える二十二日を切望。</p>						
<p>雨天続きの天候、女史の病状、また談義を切望、桂花を贈ろうとも。</p>						
<p>本多さんと談話。前回差し出した名詩。明月を眺めたこと。</p>						

97	96	95	94	93
<p>庭の池や橙、明日の講演、女史のいな淋しさについて。 【備考】 消印の日付は二十日だが、書簡本文「昭和十八十月念一」とある。</p>	<p>虚勢を張ること、伊豆山から鳴澤の松井・小室氏のもとまで出かけたことについて。 【備考】 消印の日付は十九日だが、書簡本文「昭和十八十月念一」とある。</p>	<p>昨日会えたことの喜びの言葉。【備考】 押し葉二枚現存。活字本脚注「霜葉二片封入」とあり。活字本百三十八頁一行目「宛モ君ト」と「相依相倚」の間に「一夜」の脱語。</p>	<p>翌日の好転を祈願、新著や過去の原稿について、庭の風景のこと。 【備考】 消印の日付は十六日だが、書簡本文「18・10・17」とある。活字本百三十七頁四行目に「□□□□□□」 とあり。書簡より「明治書院」か。</p>	<p>明後日会うのが待ち遠しい。昨日安部賢一氏と熱海ホテルに出向いたこと。見舞いの言葉。 【備考】 消印の日付は十月十五日だが、書簡本文では「十月十六」とある。</p>
封書（封筒有）	封書（封筒有）	封書（封筒有）	封書（封筒有）	封書（封筒有）
4	5	1	4	5
27・7×19・7	27・8×19・7	18・3×108・4	27・5×19・6	27・6×19・6
昭和十八年十月二十日 （消印より）	昭和十八年十月十九日 （消印より）	昭和十八年十月十七日 （消印より）	昭和十八年十月十六日 （消印より）	昭和十八年十月十五日 （消印より）
東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様

102	101	100	99	98
<p>別封の野菊、池の拡張工事について。【備考】本文に別封したとある野菊現存せず。消印の日付は二十六日だが、書簡本文「昭和十八年十月念七朝」とある。</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>【備考】消印の日付は二十五日だが、書簡本文「昭和十八年十月念六」とある。</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>【備考】消印の日付は二十四日だが、書簡本文「昭和十八年十月念五」とある。</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>十一月八日の講演、新著「日本三勝論」についてと女史への激励。</p> <p>【備考】消印の日付は二十三日だが、書簡本文では「昭和十八年十月念四」とある。書簡四枚目の「今度ノ新著ハ一日本三勝論」ト題シテ何故ニ勝ネハナラヌ乎、何故ニ勝ツ乎、如何ニシテ勝ツ乎ニ付テ論シタイモノト思フ。」という部分、活字本で脱文。</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>講演思った以上にうまくいったこと。【備考】消印の日付は二十一日だが、書簡本文「昭和十八年十月念三」とある。活字本の「□□翁」は「石川翁」か。</p>
4	3	5	5	4
24・6×35・0	24・7×34・8	27・4×19・7	27・4×19・6	27・7×19・7
昭和十八年十月二十六日 〔消印より〕	昭和十八年十月二十五日 〔消印より〕	昭和十八年十月二十四日 〔消印より〕	昭和十八年十月二十三日 〔消印より〕	昭和十八年十月二十一日 〔消印より〕
東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫キミ子様	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様

107	池の様子、池に入れる鯉、新著の原稿の進行状況について。 【備考】消印「18. 11. 3」とある。速達の日付は「18. 11. 3」となっている。	封書（封筒有） 5 27・7×19・6	昭和十八年十一月四日 〔本文より〕 東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様
106	東香女史の小康に対する喜び、新著の原稿の進行状況、庭の花や池、新嶋先生の追悼式で詩歌を吟ずる伊藤長四郎氏への指導、新島先生の門人について。 【備考】消印の日付は二日だが、書簡本文「昭和十八年十一月三日」とある。	封書（封筒有） 6 27・8×19・7	昭和十八年十一月二日 〔消印より〕 東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様
105	昨日の来客、世間の薄情さ、漢詩について。 【備考】消印の日付は十一月一日だが、書簡本文「昭和十八年十一月二」とある。	封書（封筒有） 5 27・8×19・7	昭和十八年十一月一日 〔消印より〕 東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様
104	中野正剛氏弔問、池に入れる予定の鯉、次の見舞いの予定について。 【備考】消印の日付は十月二十九日だが、書簡本文では「18. 11. 1」とある。書簡四枚目の「大森ノ病人一名和盛子一ハ五月以来一度モ尋シテ康楽ノ病人ノミヲ尋ルモ外聞宜シカラス」という部分、活字本脱文。脱文の後の書き出し、書簡「来月ハ」の増文あり。また書簡五枚目「詩カ出来ン明日」という付記も活字本無し。	封書（封筒有） 5 27・7×19・6	昭和十八年十月二十九日 〔消印より〕 東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫キミ子様
103	二十七日に青龍寺で行う蘇峰会、双宜園の紅葉、中野正剛氏の自殺、新宜園花々について。 【備考】活字本に押し花一枚同封とある。消印の日付は二十七日だが、書簡本文「昭和十八年十月念八夕」とある。	封書（封筒有） 1 17・5×192・0	昭和十八年十月二十七日 〔消印より〕 東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様

113	112	111	110	109	108
<p>封書（封筒有）</p> <p>5</p> <p>27・7×19・7</p> <p>昭和十八年十一月十二日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫キミ子様</p> <p>仕事のこと。九日の晩に出演したラジオ放送のこと。「ソレハ九分間位ナリシモ、恐ラクハ他ノ千萬言以上ノ効果的ノモノト存候」【備考】活字本「□□□□」↓書簡「下村海南」。</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>5</p> <p>27・6×19・6</p> <p>昭和十八年十一月十一日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫キミ子様</p> <p>晴草堂の新池を整えたこと。仏法、禅学に関して。新島先生に対する自分のような存在が、自身にはいないと嘆く。</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>昭和十八年十一月七日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫キミ子様</p> <p>女史との面会について。仕事の講演会のこと。</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>5</p> <p>27・7×19・7</p> <p>昭和十八年十一月六日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様</p> <p>天候のこと、人間の非力さのこと、翌日の女史との面会について。見舞いの言葉。</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>5</p> <p>27・7×19・7</p> <p>昭和十八年十一月五日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様</p> <p>見舞いの言葉の共に、豊橋の医者より思いがけず海老をもらったことや最近依頼が多くて煩わしいということなど報告。【備考】本文に日付「18. 11. 6」とある。</p>	<p>封書（封筒有）</p> <p>7</p> <p>27・6×19・6</p> <p>昭和十八年十一月四日 〔消印より〕</p> <p>東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫折美子様</p> <p>見舞いの言葉。仕事の報告。</p>

119	封書 (封筒有)	5	28・3×20・1	昭和十八年十一月十八日 (消印より)	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫キミ子様
118	見舞い、心配の言葉。「只管天二向テ御祈イタシ申候」	5	28・2×20・1	昭和十八年十一月十七日 (消印より)	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様
117	封書 (封筒有)	5	28・4×21・0	昭和十八年十一月十六日 (消印より)	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫折美子様
116	封書 (封筒有)	5	27・7×19・8	昭和十八年十一月十五日 (消印より)	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫キミ子様
115	封書 (封筒有)	6	27・8×132・2	昭和十八年十一月十四日 (消印より)	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫折美子様
114	封書 (封筒有)	5	27・7×19・6	昭和十八年十一月十三日 (消印より)	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫折美子さま

天気のこと、昨日岡本師佐藤氏と散歩したこと、仕事のこと等。
【備考】封書裏「御守リタル迷信ト嗤フ勿レ」と思われる文あり。活字本脚注「山葡萄ノ紅葉一片封入、葉裏に「山中ノ秋」ト書ス。」とあるが、現存せず。

小西平内氏と佐藤医師と伊豆山神社に参りお守りを買ったこと。見舞いの言葉。
【備考】封筒に住所の印二あり。「熱海市伊豆山山押出二九晚晴草堂徳富猪一郎」「東京市大森山王丁目山王
艸堂徳富猪一郎」

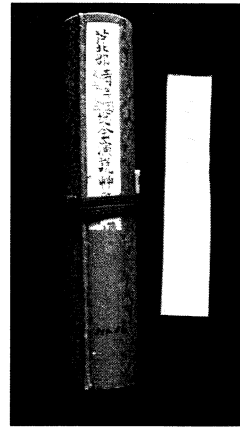
仕事の多忙であること。夢のこと。「昨日約束ノ詩」の掲載。

見舞いの言葉、鳥居甲斐守について。【備考】軸装。

125		124		123		122		121		120	
蘇峰の灸治療について、過去の回想。 【備考】活字本「□□奥サン」↓書簡「本保奥サン」。	封書（封筒有）	5	28・3×20・2	昭和十八年十一月二十四日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様	見舞いの言葉、著作の状況。 【備考】活字本「□□サン」↓書簡「東条サン」。	封書（封筒有）	1	18・2×146・4	昭和十八年十一月二十一日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫キミ子様
	封書（封筒有）	6	28・3×20・0	昭和十八年十一月二十三日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫キミ子様	祝辞に対する御礼、過去の回想。 【備考】祝辞一枚有り。31,0×46,8 活字本「呉レタル」↓書簡「呉レタ」。活字本「明日モ又タ」直後「見タイ」に訂正あり。	封書（封筒有）	5	28・3×20・1	昭和十八年十一月二十二日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様
	封書（封筒有）	5	28・2×20・1	昭和十八年十一月二十日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫キミ子様	上海申報社党陳氏らへの対応、見舞いの言葉、手記の御礼。 【備考】活字本「□□」↓「支那」。	封書（封筒有）	5	28・2×20・0	昭和十八年十一月十九日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様
	封書（封筒有）	5	28・2×20・1	昭和十八年十一月二十日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫キミ子様	国民史九十一冊完成について。	封書（封筒有）	5	28・2×20・0	昭和十八年十一月十九日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫きみ子様
	封書（封筒有）	5	28・2×20・1	昭和十八年十一月二十日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫キミ子様	仕事のこと。新著の進み具合の報告。将来のこと「若シ君カ快起セハ今度ハ倍スル忠友トナリテ貫ヒタイ」	封書（封筒有）	5	28・2×20・1	昭和十八年十一月二十日 〔消印より〕	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫キミ子様

番号 無し		130	129	128	127	126
水俣婦人会が褒賞されたことに対する祝辞。	封書（封筒有）	英語にて、愛の言葉。	封書（封筒有）	封書（封筒有）	封書（封筒有）	封書（封筒有）
	1		2	4	5	5
	17・9×185・2	28・4×20・1	28・3×20・1	28・3×20・0	28・4×20・1	28・3×20・1
	昭和八年三月二十四日 〔本文より〕	昭和十八年十一月二十九日 〔消印より〕	昭和十八年十一月二十八日 〔消印より〕	昭和十八年十一月二十七日 〔消印より〕	昭和十八年十一月二十六日 〔消印より〕	昭和十八年十一月二十五日 〔消印より〕
	熊本縣水俣町緒方和一様 気付 夫人様	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫キミ子様	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫キミ子様	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫キミ子様	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院八重樫祈美子さま	東京都豊嶋区西巢鴨二丁目 康楽病院 八重樫祈美子様
			見舞いの言葉、苦しい心情を吐露。別れの言葉を告げる。	見舞いの言葉、原稿の完成報告。	蘇峰の退院について、地の魚について、執筆状況。	手紙の催促、蘇峰の灸治療について。 【備考】活字本「筆受スル日」↓書簡「筆 ^{（見七消す）} 授」受ノ日」

青北郡青少年団処女會
 演説草稿
 一、自衛
 二、自治
 三、自給
 四、自強
 五、自愛
 六、自潔
 七、自勵
 八、自勉
 九、自修
 十、自進
 十一、自足
 十二、自給
 十三、自強
 十四、自愛
 十五、自潔
 十六、自勵
 十七、自勉
 十八、自修
 十九、自進
 二十、自足



以上四自一愛
 諸君各位
 一人一個立派
 己身人々
 而之更協全
 一致、精神、以
 互相協、相
 砥、居、必、主、國
 之、志、良、臣
 民、心、之、成、也
 乎
 昭和三年三月
 三十日 水保
 新井 久

以上四自一愛
 諸君各位
 一人一個立派
 己身人々
 而之更協全
 一致、精神、以
 互相協、相
 砥、居、必、主、國
 之、志、良、臣
 民、心、之、成、也
 乎
 昭和三年三月
 三十日 水保
 新井 久

芦北郡青少年団処女會での演説草稿

芦北郡青少年団処女会での演説草稿

三月三十日 昭和五

芦北郡

青少年団処女会

演説

本日偶然ニモ此ノ盛

会ニ列ス欣幸

ノ至ナリ

第一郷土愛

愛国心ノ揺籃也

第二自信是レ各

個人頂天立地

ノ基調

第三自恃 所謂

独立自尊乞食

根性は泥坊根性

ト同類也

第四自発 他人

ノ督励指導ヲ待

タス自カラ発意シ

自カラ研精ス

第五自任 云ハ、

責任ヲトルコトナリ

西郷南洲翁ハ功

ハ人ニ譲リ過ハ己

ニ取ルト云ヘリ。

第六自省 曾子

三省三百省。

自省ハ実ニ向上

ノ一大功夫

以上四自一愛ヲ以

テセハ諸君各位

必ラス一個ノ立派

ナル日本人トナラン

而シテ更ニ協全

一致ノ精神ヲ以テ

互ニ相誘掖シ相

砥厲セハ必ラス国

家忠良ノ臣

民タルニ庶幾ン

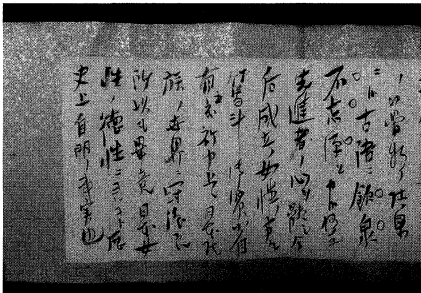
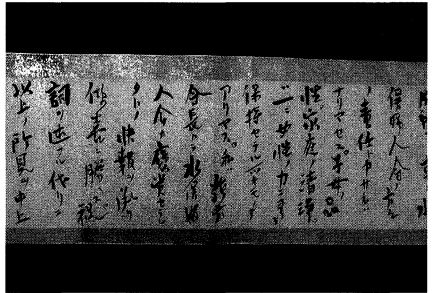
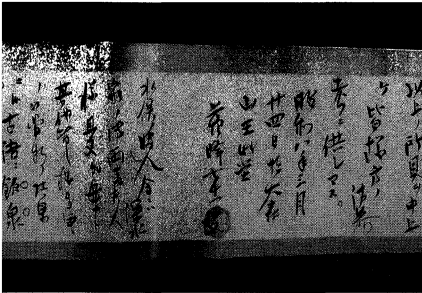
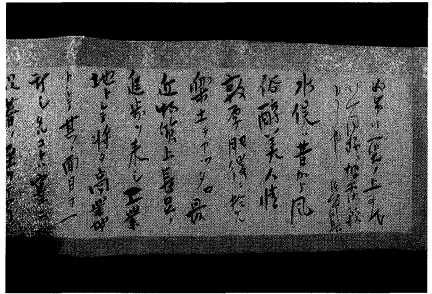
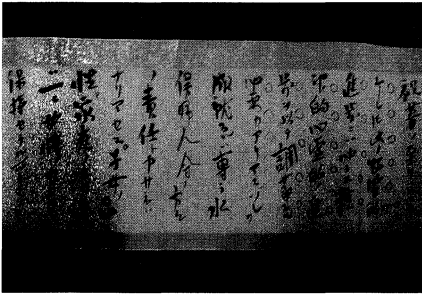
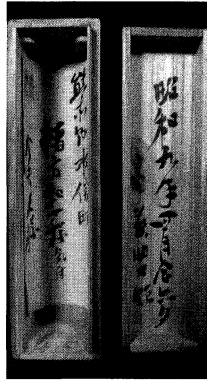
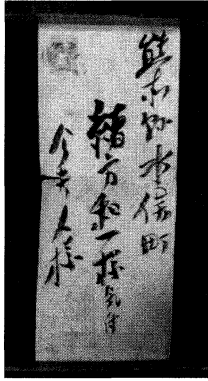
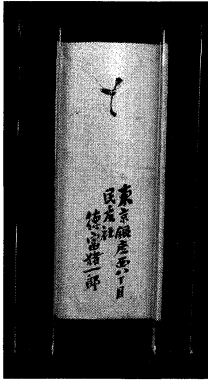
乎

昭和五年三月

三十日水俣

二於テ

蘇峰学人



水俣婦人会へ宛てた文書

水俣婦人会へ宛てた文書

別紙御一覽ノ上可然
御一同様ニ披露願
上候也 猪一郎不具

水俣ハ昔から風
俗醇美人情

敦厚肥後ニ於ケル
樂土テアツタ。最

近物質上長足ノ
進歩ヲ来シ工業

地トシテ將タ商業地
トシテ其ノ面目ヲ一

新シタルコトハ寔ニ
祝著ノ至リテアリマス。

ケレトモ此ノ物質的
進歩ニハ必ラス精

神の心霊的ノ進
歩ヲ以テ調節スル

必要カアリマス。ソレヲ

成就スルハ専ラ水
俣婦人会ノ方々

ノ責任ト申サネハ

ナリマセヌ。子女ノ品

性。家庭の清淨。

ハ一ニ女性ノ力ニヨリテ

保持セラル可キモノテ

アリマス。私ハ緒方

会長カラ水俣婦

人会カ褒賞セラレ

タトノ快報ヲ承リ

欣喜ニ勝ヘス。祝

詞ヲ述フル代リニ

以上ノ所見ヲ申上

ケ皆様方ノ御參

考ニ供シマス。

昭和八年三月

廿四日於大森

山王艸堂

蘇峰七十一叟（朱印）

水俣ノ婦人会ニハ深水

家ノ御両老夫人

様且又私母ナト

其他皆ノ様多年

ノ御骨折ノ結果

ニ候古語ニ飲泉

不。忘。源。と申候何卒

先進者ノ心ヲシ今

后成立ノ女性ノ方々

篤斗御賢省

有之度祈申上候日本民

族ノ世界ニ冠絶スル

所以モ畢竟日本女

性ノ徳性ニヨルコト歴

史上自明ノ事実也